

とよく云われるが、まわりを見渡しながら「全滅だ」と噴いていた。

だから、この歌がこの世に誕生してから今日まで七十五年も、この景観を維持し続けている現実を奇跡のようだと感じている。



「でも、その人お金持ちだからできるんじゃないの?」

この垣根の話をする、何人もの人が「お金があるから」という風に話をまとめるのがどうも気に入らない。

私は「じゃあ、お金があったらあなたもそうする?」と言葉をかえす。そして、かえしながら、自分自身、生き方に直結するお金の使い方について考えてみる。

そして、お金がある無しにかかわらず、自分のことだけでなく、この人が他人の笑顔を大切にしている生き方であることにしみじみ思い至る。

自転車に乗った見ず知らずの子どもが大人になったとき、その心の中に、歌えばこの景観が財産のように立ちのぼってくる、そんな見えな

い幸せをも察することのできる人なのだろう、と考えると、私もこんな風な価値観で暮らしたいと憧れた。



約一年ほど前のことだが、SNSについてロシア情報セキュリティ会社が調査した、日本人千人分のアンケートにはショックを受けた。

SNSで嫌な気分になった理由のトップは、「他人が自分よりも良い人生を送ったことを知ったとき」で、「結婚、子供、旅行、休暇などが自分より幸せそうだと不快になる」が、なんと五十四パーセントだというのだ。

なんでも比較し、自分が一番でいたい嫉妬心オンリーの人は確かにいる。しかし、五割を超えていることには「ホントに?」と信じ難い思いだ。が、そうはなりたくない。

もし精神的に追いつめられたり疲れたら、この歌を歌うことにしよう。

きつと幼い頃にかえったような素直な気持ちを取り戻し、酸素を吸い込んで、元気にスタート出来そうな気がするから。



いまいともこ/人材教育「とも子塾」主宰。立教大学文学部史学科卒業後TBS東京放送入社、アナウンサーを務める。1987年(株)「とも子塾」を設立、現在に至る。新著『社会人用語ハンドブック』(サンマーク出版)、『誰とでもラクに話せるコツ101』(高橋書店)、『あいさつ&スピーチ「言葉につまらずに話す技術」』(PHP研究所)のほか著書多数。<http://www.tomoko-juku.com>【近況】ハガキの隅にちよこっと描いたイラストを褒められ、少しいい気分になっています。学生時代絵の点数は、普通の3でした。でも好きなので、我流で楽しんでいます。